

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	ネクスト
住 所	兵庫県多可郡多可町八千代区下村69-1
電話番号	0795-37-2701

事業所番号	2812700124
管理者名	永崎 久仁
対象年度	令和8年度

地域連携活動の概要

<活動内容>

活動場所 中工場・リフレッシュ工場・寺内・和田

実施日程 通年

実施した生産活動・施設外就労の概要

今年度も、地域の民間企業と連携し企画した低反発ウレタンのリユース製品の製造や、ロングフロアークッション等の製造を請け負いました。また、7市2郡の自治体と契約し、クリーンセンターから引き取った不要ふとんでのリサイクル事業も順調です。自治体の備蓄用防災毛布で一定年数を経たものを回収し、クリーニングしてまた圧縮パックに入れ再び備蓄用にするリユース事業も継続しています。

利用者数 21名

令和7年度年間延べ施設外就労日数：4,174日

<目的>

地域連携活動のねらい

地域の企業と連携し、地域の活性化に微力ながら貢献したいと考えています。リユース製品の製造事業や布団リサイクル事業等は、障がい者就労、環境保全という「福祉」「環境」2つの社会的課題に寄与できる活動です。

地域にとってのメリット

地域の利用者さんを雇用し、障がい者の継続した就労と一般就労への移行を支援します。不要ふとんの引取りについては、7市2郡の自治体と契約し、クリーンセンターから大量の不要ふとんを引き取り再生しています。また、ホームページを見たり口コミにより近隣住民や少し遠方の方も「助かります。」「無料は嬉しいです。」「捨てるのはもったいないので再利用していただけるなら嬉しいです。」と持ち込んでくださいます。

対象者にとってのメリット

地域の民間企業と連携することで、利用者さんに提供できる仕事の量も質も充実します。それにより、利用者さんの特性やニーズに合わせた作業や勤務地を提供しやすくなります。利用者さん側からも自分に合った勤務地を選ぶことができます。企業の社員や代表、また、出入りする業者等と接することで、作業スキルのみならず、コミュニケーション能力等の総合的な就労能力の向上に期待でき、一般就労への移行に資することは間違いありません。施設外就労でめきめき成長された利用者さんを何人も見てきました。また、勤務地が増えることにより、自力で通所できるようになった利用者さんが多くいらっしゃいます。

<活動の様子>

活動の様子の写真

成果物の写真

活動内容の追加コメント



<成果>

実施した結果

ネクストでは本所と施設外就労を合わせて現在34名の利用者さんが勤務されています。A型の経営は国の施策の改定や最低賃金の上昇、物価の高騰など、年々厳しくなっています。また、寝具製造業としても、競争は激しく求められる商品の移り変わりも激しいなど厳しい現状があります。A型は経営が成り立っていないとその存在価値がないといわれる時代です。そのような中、フロンティア(株)と連携しての商品の企画製造がネクストを支えています。令和7年度もよい決算状況で終わることができました。

得られた成果

施設外就労があることで、今年度も利用者さんに滞りのないサービスを提供することができました。民間企業で就労する経験は、当然厳しさもある半面、新しい作業に順応する力や上手くいかないときにぐっとこらえて取り組む忍耐力が身につきます。自ら気付き考え作業できる力が身につくチャンスも多くの場面であります。また、利用者さん同士や職員だけではなく企業の社員と話をすることでコミュニケーション能力も付いてきます。仕事というものに対する意識自体も変えています。これらはすべて、一般就労への移行に資することだと確信しています。実例として、挨拶がきちんとできるようになった、欠勤が減った、連絡や報告がちゃんとできるようになった、ミスを次に生かすことができた、相手を思いやることが出るようになった、自ら職場を明るくしようとした、など様々、多くの方に大きな成長が見られます。そして施設外就労から一般就労へつながった利用者さんは令和7年度は2名となりました。

課題点

一般就労に関しては、やはり高い壁があるように感じる事が多くあります。また、福祉事業所だけの努力だけではどうにもならず、支援相談所、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、受け入れ側の企業が連携して取り組む必要があるのは当然ですが、この連携がより活発になることを切望しているところですが、令和9年度からA型事業所でも就労選択支援事業が始まります。この事業に期待していますし、企業に対しては、障がい者雇用に関してより踏み込んだ改革改善を望んでいるところです。ネクストとしても一層の努力をしていかなければなりません。

連携先の企業等の意見または評価

連携した結果に対する意見または評価

今後の連携強化に向けた課題

毎日のようにネクストの利用者さんと接していると、それぞれの方の様子が気になるようになります。今日は少し元気がないようだとか、顔色がいいとか、この作業に慣れてこられたとか様々です。成長を見て取れるときはとても嬉しく、施設外就労先としてのやりがいを感じる時でもあります。毎日仕事をし、一定の賃金を得て、安定した生活を送る。安定した生活を送れる喜びがまた、明日の仕事へのモチベーションになる。この循環の大切さは日々感じていますし、これは障害者であろうが健常者であろうが就労の原点であり意義であると思います。受け入れてからずっと見守っていた利用者さんがいらっしゃいました。当初は何かと理由を付けて欠勤し、作業に対しても全く積極性が感じられませんでした。借金があるのに欠勤が多いため得られる賃金が少なくなり、ますます金銭的に苦しくなるという悪循環でした。ところがネクストの職員さんの熱心な働きかけで少しずつ欠勤が減ってきました。出勤が増えることで安定した収入を得るようになってくると、それによる生活の安定を実感するようになる、そうすると休まない状況が継続してくる。作業に対する熱意が出てくる。責任感も出てくる。周りから頼られるようになってくる。それに応えようとする...と段階を経て目覚ましい成長を続けられました。そして彼の実力を買った私は、令和6年についてわが社の社員として迎えることを決めました。こんな日がやってくるとは当初は考えたこともなく、感慨深いものがありました。この方は50代ですが、同じような成長を見せた20代の男性を令和8年度から社員として力を発揮していただくことにしました。また、他の民間企業に行かれた方は7年度は2名おられます。フロンティアという民間企業で働くことが、一般就労への道筋の一つになるのなら、精いっぱい協力したいという思いはこれからも変わりません。

令和7年度も引き続き不要ふとんのリサイクル事業と、連携し企画した低反発ウレタンのリユース事業での製造部門を一手に担っていただきました。行政の防災毛布のリユース事業も継続しています。不要ふとんのリサイクル事業はネクストが活動を開始した時から連携して実施しているので、14年目となりました。自治体と契約をし回収した不要ふとんでのリサイクル事業は、当初の14年前に比べると、世の中の反応に大きな変化があります。「え?」「は?」⇒「へー!」「ほうー!」といった感じです。ネクストさんと一緒に当初から理念としていた「人と地球にやさしいモノづくり」のワードはいまや「SDGs」として多くの人、会社、行政にご賛同いただけるようになりました。ただ、これから先も新たな可能性を見出し、新しい製品を生み出していかなければなりません。そこには、企画・製造で力を合わせてくれるネクストという存在がなくてはなりません。

連携先企業名

フロンティア株式会社

担当者名

内橋 毅